

愛知県青少年育成県民会議だより

Next Generation

次代

第133号 2012.3



平成23年度

「家庭の日」県民運動啓発ポスター

生徒の部 特選入賞作品

田中祐衣子さん

毎月第3日曜日は家庭の日

‘親と子の
対話がつくる
よい家庭’



CONTENTS

目次	
県民会議理事会・総会の案内	1
私の意見 「おじいちゃんおばあちゃんの出番です」	2
青少年団体の活動紹介 愛知県青年赤十字奉仕団連絡協議会	3
「家庭の日」県民運動啓発ポスター入賞者の紹介	4
青少年によい本をすすめる県民運動	5
子ども・若者育成支援県民運動	6
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(冬期)	7
表彰等受賞者の紹介	8
編集後記	8

県民会議理事会・総会のご案内

【理事会】

日時 平成24年3月19日(月)午後2時

場所 自治センター 8階会議室D

【総会】

日時 平成24年5月25日(金)午後1時30分

場所 三の丸庁舎8階大会議室

私の意見 — 「おじいちゃんおばあちゃんの出番です」

三宅 邦夫(中日こども会代表)

戦後まもなく、弁論を中心とした青少年活動を掲げて創設した中日こども会は、子どもたちのニーズに合わせて活動内容が変遷していきました。戦災から復興する時代を懸命に生きる子どもたちのために、口演童話や紙芝居、人形劇、音楽を携えて、各地で巡回子ども会を開きました。やがて経済的にも豊かな生活を享受するにつれて、遊ばない遊べない子どもたちに遊びの復権をと、身近なものを活かしての運動遊び、手遊び、手品遊び、うた遊び、野外遊びなど、いつでもどこでも誰とでも、お金をかけないで楽しめる遊びの世界を広げていきました。発足から65年、数々の実践活動を積み重ね、現在では乳幼児から高齢者まで世代を超えた活動へと広がっています。



■ 子どもたちの健やかな育ちを願って ■

かつては、子どもたちを地域で育むために、子ども会が誕生し、チビッ子広場ができ、野外活動やソフトボール大会で盛り上がり、夏休みには大人もラジオ体操に参加して、街のあちらこちらに子どもたちの歓声が響きました。この頃では、広場はあっても子どもの姿は稀有に等しく、孫のいる祖父母になっても孫に代わって犬と散歩するのが当たり前の光景になっています。またライフスタイルも変容して、人情、同情、友情、愛情など“情”の希薄化した家庭や地域社会での暮らしが日常化してきたように思います。



そこで、これからの日本を背負う子どもたちの健やかな育ちの基盤は、まず“最も身近な親と子・祖父母と孫の愛情関係や信頼関係を築くことから”をモットーに、講演活動に出かけています。特に一番親しい世代間交流として、「おじいちゃんおばあちゃんと孫のつどい」を、地域の子ども会、自治会、幼稚園、保育園、児童館、子育て支援センター、学校などで企画し開催していただくよう提唱しています。

■ 絆を深める橋渡しが“遊び”です ■

楽しいふれあい遊びをするこのつどいが、祖父母と孫の絆を結びきっかけとなることを大変嬉しく思います。子どもたちは祖父母から温もりのシャワーを、祖父母は子どもたちから元気なシャワーを浴びて、お互いに生きる力がパワーアップするのです。先ごろ、このつどいに参加された祖父母の方から「おばあちゃん来てねと電話をもらい、孫と楽しめて幸せでした。」の感想をいただき、私の元気薬になりました。おじいちゃん・おばあちゃん・パパ・ママ・子ども みんな楽しく遊べば、みんなHAPPY！これが私の目標です。



青少年団体の活動を紹介します

愛知県青年赤十字奉仕団連絡協議会

垣内 優作

私たちにできること ～想いをカタチに～

愛知県青年赤十字奉仕団連絡協議会は、県内7つの大学と1つの社会人を中心としたグループの計8つの青年赤十字奉仕団で構成された日本赤十字社愛知県支部所属のボランティア組織です。

主な活動として、被災地の支援(募金活動・被災地でのボランティア活動)、災害に備えた訓練、献血の呼びかけ、赤十字病院の小児病棟でのボランティアなど、さまざまな活動を行っており、昨年3月11日の東日本大震災でも支援活動を行いました。

義援金のよびかけ(3月13日～)

私たち愛知県青年赤十字奉仕団連絡協議会は、震災の2日後から愛知県内の街頭で義援金の呼びかけを開始し、十数日にわたり募金活動を行ってきました。募金を入れてくれる方から「おふくと連絡がとれないが、このお金を被災地で困っている人に届けてくれ」「活動応援しているから頑張る」という言葉をかけてくれる方がたくさんいました。この想いを被災地に届けたいと思うようになりました。



震災でボランティア活動(8月30日・31日活動)

大学で震災ボランティアの報告をしたとき、仲間たちからは「ボランティアをどこで募集しているか分からない」「費用が高くて行けない」といった声がありました。そこで、震災ボランティアツアー 1泊4日(車中泊2日・活動2日間)を企画し、総勢25名で行きました。場所は、宮城県七ヶ浜町。この地域は沿岸の町で、2日間活動した場所は、津波で家が押し流された所でした。活動は全壊した家屋の床板の解体、がれき・石・砂・ガラスの破片の撤去作業、家屋周辺の除草作業などを行いました。

参加した団員からは「瓦礫やガラスの破片の撤去をしていると、お皿やスプーン、写真や賞状など生活の痕跡が見え隠れして、ここには家があり人が住んで生活をしていたのに津波で流されてしまったんだ・・・ということを実感した」「現地についた瞬間テレビでみていた景色と同じものが広がっていてとても驚いた。それとともに、微力でもいいから力になりたいと強く思った」などの意見が聞かれました。

これからも・・・忘れずにいたい「助け合い」の気持ち

今回の活動を通して感じたことは、「助け合い」の気持ちです。ボランティアセンターには東北の人はもちろん、全国から毎日多くのボランティアが来ていました。皆知らない人同士でしたが連携をとり助け合いながら活動しています。何かあった時はこうやって1つになって乗り越えていけるのだと実感しました。

今後も、赤十字奉仕団として赤十字活動のPRをしていきます。また、東海、東南海大地震に備え、赤十字のボランティア同士の連携の強化や絆を深めていきたいと思えます。もし震災が起こった際、私たちができることから行動し、1人でも多くの方を支えていきたいと思えます。



「家庭の日」県民運動啓発ポスター入賞者の紹介をします

「家庭の日」県民運動の一環として実施した啓発ポスター募集に県内の小・中・高校生等から33,024点の応募があり、特選(愛知県知事賞)2名(児童の部、生徒の部各1名)を始めとして、下表のとおり入賞者が決まりました。このうち、“生徒の部 特選”の作品を県のポスターの図柄として採用し、県内の教育機関等に配布するなど、優秀作品を2月の「家庭の日」県民運動強調月間の啓発活動に活用しました。

平成23年度「家庭の日」県民運動啓発ポスター入賞者名簿

賞 区分	児童(小学生)の部			生徒(中学生・高校生)の部		
	氏 名	学 校 名	学年	氏 名	学 校 名	学年
特 選	杉木 真由	一宮市立大和西小学校	6年	田中祐衣子	愛知県立瀬戸窯業高等学校	2年
入 選 (各5名)	森本 実里	津島市立西小学校	1年	泉 汐美	江南市立宮田中学校	1年
	尾関 愛豊	一宮市立瀬部小学校	2年	宇野 千斐	刈谷市立依佐美中学校	1年
	笠井 美歩	名古屋市立諏訪小学校	5年	安永 葵	一宮市立尾西第三中学校	2年
	山口 莉生	知立市立知立西小学校	5年	間瀬祐紀子	半田市立成岩中学校	3年
	本多 拓人	美浜町立布土小学校	6年	河村佳代子	知多市立八幡中学校	3年

児童の部

生徒の部

特選

杉木 真由さん



田中 祐衣子さん



入選

森本 実里さん



尾関 愛豊さん



泉 汐美さん



宇野 千斐さん



笠井 美歩さん



山口 莉生さん



本多 拓人さん



安永 葵さん



河村佳代子さん



間瀬祐紀子さん



「第50回青少年によい本をすすめる県民運動」を実施しました ～「育てよう 豊かな心 読書から」～

■ 読書感想文募集の結果報告 ■

愛知県と愛知県青少年育成県民会議では、毎年10月を「青少年によい本をすすめる県民運動」強調月間と定め、「育てよう 豊かな心 読書から」をスローガンに、家庭・学校・地域社会での積極的な運動の展開を図り、関係機関・団体の協力を得、はがきによる読書感想文の募集等を実施しています。

平成23年度の読書感想文の応募結果は次のとおりでした。応募いただいた学校等には愛知県書店商業組合の協賛により、図書や図書カードを寄贈しました。さらに、全校で取り組んでいただいた学校のうち優秀校には、直接訪問して図書を寄贈しました。

- 応募総数 18,151点
- 応募内容 学校71校、個人72人
- 寄贈数 図書約2,000冊、図書カード52,500円分
- 訪問校
 - 一宮市立大徳小学校
 - 豊明市立館小学校
 - 弥富市立十四山西部小学校
 - 半田市立乙川小学校
 - 西尾市立一色南部小学校
 - 津島市佐橋学園昭和幼稚園



■ 知事から感謝状を贈呈 ■

「青少年によい本をすすめる県民運動」が50周年を迎えたことを機に、長年にわたって図書カード(券)や児童図書の寄贈等により青少年の読書活動の推進に御協力いただいた愛知県書店商業組合と以下の出版社に対して、大村秀章愛知県知事から感謝状が贈呈されることとなりました。

感謝状贈呈は平成24年2月9日に愛知県公館で行われ、当日出席された11名に、知事から感謝状が手渡されました。

学校法人文化学園
株式会社岩崎書店
株式会社金の星社
株式会社国土社
株式会社小学館
株式会社徳間書店
株式会社文溪堂
文研出版(株式会社新興出版社啓林館)

株式会社あかね書房
株式会社偕成社
株式会社くもん出版
株式会社小峰書店
株式会社新日本出版社
株式会社評論社
株式会社ポプラ社

株式会社あすなろ書房
株式会社学研マーケティング
株式会社講談社
株式会社さ・え・ら書房
株式会社童心社
株式会社福音館書店
大日本図書株式会社

(22社、五十音順)



左から愛知県書店商業組合副理事長、同理事長、大村知事



感謝状贈呈当日の出席者と大村知事(前列中央)

「子ども・若者育成支援県民運動」を実施しました ～ 「育てよう 自分に勝てる子 負けない子」～

愛知県と愛知県青少年育成県民会議では、全国の子ども・若者育成支援強調月間に合わせ、毎年11月を「子ども・若者育成支援県民運動」の強調月間と定め、「育てよう 自分に勝てる子 負けない子」をスローガンに、健全な青少年の育成を呼びかける活動を展開しました。

今年度は、強調月間の初日、11月1日(火)に金山駅及びその周辺で青少年団体・青少年育成団体の参加の下、街頭キャンペーン活動を行い、往来する人々に子ども・若者育成支援の協力と理解を呼びかけました。



子ども・若者育成支援県民運動(金山駅にて)



育19キャンペーン(金山駅にて)

県庁本庁舎正面玄関の看板

11月18日(金)には、午前と午後の2回に分けて、金山駅と栄地下街クリスタル広場周辺で県庁5部局共同の「育19 (いくいく)キャンペーン」の中で子ども・若者育成支援の協力と理解を呼びかけました。

また、県庁本庁舎正面玄関に看板を掲げ、啓発を行いました(平成23年11月17日～29日)。

「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(冬期)」を実施しました ～「非行の芽 はやめにつもう みな我が子」～

愛知県と愛知県青少年育成県民会議では、青少年が有害環境等に接する機会が多くなる冬休み期間に合わせて、平成23年12月20日(火)から平成24年1月10日(火)までの間を「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動」の冬期強調期間と定め、青少年の非行・被害防止のための広報啓発活動、各種の運動を集中的に実施しました。

この運動の一環として、青少年団体関係者、女性団体関係者、携帯電話会社関係者、市町村青少年担当者、少年センター関係者、教育関係者、警察関係者、行政関係者など約120名により、次の活動を実施しました。

<日 時> 平成23年12月20日(火)

時 間	行 事 名	場 所
13:45 ～15:15	講演会「子どもたちのケータイ・インターネットの利用について」 【講師】 愛知県教育委員会総合教育センター情報教育部 情報システム研究室研究指導主事 小山 真臣	名古屋市教育館 2階講堂
15:30 ～15:45	愛知青少年サポートパトロール隊(あいち声かけ隊)出発式 県民運動のスローガン唱和 【スローガン】 非行の芽 はやめにつもう みな我が子	同上
15:45 ～16:15	非行・被害防止キャンペーン	栄駅周辺



講演会



愛知青少年サポートパトロール隊出発式



非行・被害防止キャンペーン

表彰等受賞者の紹介

■「平成23年度社会教育功労者文部科学大臣表彰」■

文部科学省では、毎年、地域における社会教育活動を推進するため、多年にわたり社会教育の振興に功労のあった方及び全国的見地から多年にわたり社会教育関係の団体活動に精励し社会教育の振興に功労のあった方などを表彰しています。このたび、地域における社会教育功労者「青少年教育」の功績分野で、社団法人ガールスカウト日本連盟愛知県支部監事である加藤富子さんが受賞されました。

◆ 社会教育功労者文部科学大臣表彰

社団法人 ガールスカウト日本連盟
愛知県支部監事 **加藤富子さん**

ガールスカウトの組織の拡大と強化に努めるとともに、少女の育成、指導者の養成、ガールスカウトの資質向上を図るなど青少年の健全育成に貢献しています。

■「平成23年度子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」■

内閣府では、毎年、子ども・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動において、顕著な功績があった企業、団体又は個人を表彰しています。このたび愛知県から、内閣府特命担当大臣表彰1団体と、チャイルド・ユースサポート章3団体が表彰されました。

◆ 子ども若者育成・子育て支援功労者表彰

内閣府特命担当大臣表彰 団体「子ども・若者育成支援部門」
財団法人 **NGK留学生基金**

愛知県内の大学に在学する外国人留学生に対し、宿舍の提供や奨学金の支給支援を行うとともに、若者をはじめとする地域住民と同留学生との語学講座の開催等の交流の場を設けた活動を展開しています。



◇チャイルド・ユースサポート章

団体「子ども・若者育成支援部門」
豊橋市少年補導委員会

警察、自治体、学校等と連携した街頭補導活動や広報啓発活動、居場所づくり活動等を行っているほか、「ママパト見回り隊」の発足、外国人少年補導委員の登用など、少年の非行防止と健全育成活動に取り組んでいます。

◇チャイルド・ユースサポート章

団体「子育て・家族支援部門」
特定非営利活動法人
子育て・子育てNPOスコップ

市内の先駆的存在として「子育てひろば事業」、「キッズクラブ」、「ピアサポート事業」や他団体との「ネットワーク事業」を展開しています。

◇チャイルド・ユースサポート章

団体「子育て・家族支援部門」
特定非営利活動法人
子育て支援のNPOまめっこ

子育て広場として商店街の空き店舗を利用するなど、コミュニティ再生に貢献するとともに、研修・講演会の実施、イベント開催、一時保育などを行っています。

編集後記

10月から2月にかけて4つの県民運動の強調月間(期間)が続き、さまざまな取組が実施されました。その中でも、10月を強調月間とする「青少年によい本をすすめる県民運動」は、今年度で50周年を迎え、節目の年となったことを機に、長年にわたりこの運動に協賛していただいている愛知県書店商業組合様と多数の図書を寄贈してくださった出版社様に愛知県知事から感謝状が贈呈されました。これまでの多大なる御尽力に心から感謝いたします。